

レアアース

Q: 最近話題になっているレアアースについて教えてください

A: レアアース(希土類)は、希少金属であるレアメタルの一種で、産業利用されているランタン、セリウム、ネオジウムなど17種類の鉱種の総称です。モーター用磁石や液晶パネルの研磨剤など幅広い用途で使用されており、工業製品の製造に欠かせない鉱物資源となっています。

ただ、世界全体の97%を生産する中国で国内の消費量が拡大していることから、以前より供給途絶のリスクが懸念されていました。調達のほとんどを中国からの輸入に頼る日本でも、安定供給の確保が課題となっています。

Q: レアアースは中国でしか採掘できないのでしょうか

A: レアアースは銅やアルミニウムといったベースメタルなどを採掘する際に副産物として取れる場合が多く、埋蔵量自体は中国のほかにも独立国家共同体(CIS)諸国や米国、豪州など世界各地で豊富に確認されています(図表)。

実際、以前は米国が最大の生産

国でしたが、中国産に比べ含有量が少なく混合物から分離するのにコストがかかる上に、消費量も主産物の鉱種に比べれば少量なため採算を取るのが困難であるといった理由から、現在では生産をやめています。

一方中国では、安い労働コストなどを背景に生産が増加し、中国産のレアアースが供給の大半を占めるようになりました。

Q: 中国からの輸入が滞っているとの報道がありますが、何が起きているのでしょうか

A: 中国では近年関税率を引き上げたり輸出枠を設定するなどして輸出を抑制する政策を採ってきました。今年に入ってそうした動きがさらに強まり、7月には今年の輸出枠を一気に4割削減することを発表していました。

そして、日本政府が中国政府に対して輸出枠削減の見直しを求めている最中の9月下旬に、輸出手続きの煩雑化や遅延などといった輸出を実質的に抑制する動きが表面化しました。

中国政府は公式には否定してい

ますが、輸入業者は経済産業省の調査に対して「支障が出ている」と回答しており、輸入が滞ったのは事実のようです。そして、尖閣諸島を巡る問題と絡めて中国の外交圧力と報道されたことで事態はさらに深刻化しました。

Q: 日本経済へはどのような影響があるのでしょうか

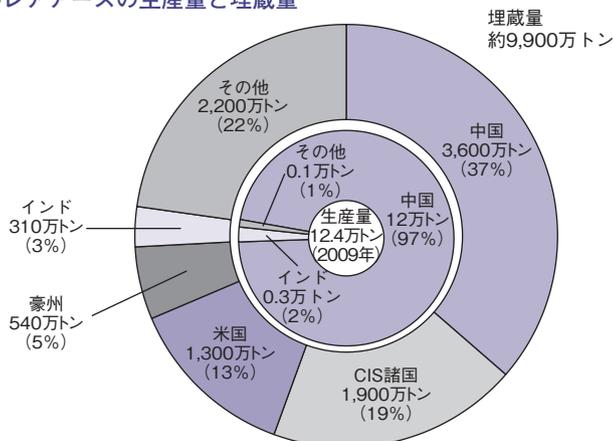
A: 遅延問題は10月中旬時点でも解決しておらず、輸出停止の動きは欧米向けの輸出にまで拡大していると報道されています。備蓄で対応している企業もあるようですが、削減された輸出枠が見直されなければ、輸出が再開されたとしても価格の高騰が続くと予想されます。さらに、必要量が確保できず生産活動に悪影響が及ぶ可能性もあります。レアアースが不可欠なハイテク製品に強みを持つ日本にとっては、問題の長期化による影響が懸念されます。

こうした事態を受けて、新たな調達先確保や代替素材開発、リサイクルの取り組みが活発化しています。政府も今年度の補正予算でレアアース関連(少量化設備を対象にした補助、新たな調達先確保のための鉱山開発や利権確保費用、代替素材開発・リサイクル施設の整備費用)に予算を計上する方針を発表するなど、脱レアアース依存、脱中国依存の動きが加速しています。

ただ、こうした動きがレアアース不足や中国依存の解消につながるまでには少なくとも数年はかかるかと予想され、しばらくは予断を許さない状況が続くとみられます。◻

みずほ総合研究所 市場調査部
シニアエコノミスト 井上 淳
jun.inoue@mizuho-ri.co.jp

●レアアースの生産量と埋蔵量



(資料)USGS(米国地質調査所), Mineral Commodity Summaries2010